

DX化の推進で将来の制度改革に備え

「短納期」「高品質」「人財育成」をさらに充実!

株式会社洛北義肢

京都市北区大北山原谷乾町22-16

義肢装具や医療用のコルセット・サポーターなど オーダーメイド製作で提供し続ける企業



当社は、昭和48年に洛北義肢製作所として創立。昭和57年に株式会社洛北義肢として設立し、義肢装具をはじめ、医療用のコルセット・サポーターやリハビリ機器など各種補装具や研究用機器の製造・開発・販売を行っている会社です。当社製品は通院治療や手術後のリハビリテーションから日常生活、スポーツまで幅広い分野でご使用いただいております。義肢は義手や義足のことで、パラリンピックなどでご覧になったことがあると思います。装具はコルセットやサポーターなどがあり、医師の処方のもと、お一人おひとりの症状や身体の状態に合わせてオーダーメイドで製作しております。義肢装具士のほか、1級・2級義肢装具製作技能士、日本義肢協会認定座位保持装置製作者・靴型装具製作者が在籍、大学病院などに常駐している義肢装具士もあり、営業範囲としては京都府・滋賀県を中心に、大阪府・兵庫県・静岡県の病院へもお伺いをしています。

「必要とされるひとに 必要とされるものを 必要とときに…」をモットーに掲げ、2001年に国内の義肢装具製造業初のISO9001の認証を取得。徹底した品質管理と生産リードタイム短縮とそれを可能にする人材育成に務め、継続的な改善を実行しています。そして、様々な情報を収集して医療機関との連携、厚生労働省が進める検討会の結果などを踏まえDX化を推進しています。近い将来、医療DXが大きく前進するタイミングを逃さないよう、社内全体へDX化の浸透を進めています。私たちの製品は、高齢化が加速する社会でますますニーズが高まると予想され、DX化を進めて研究や開発・改良に集中できる環境を整備し、学会発表などの学術活動にも力を注いで参ります。現在はスポーツの分野でも当社の技術・製品をご使用いただいておりますが、今後、医療分野以外でもますます貢献できる企業へとさらに成長して参ります。

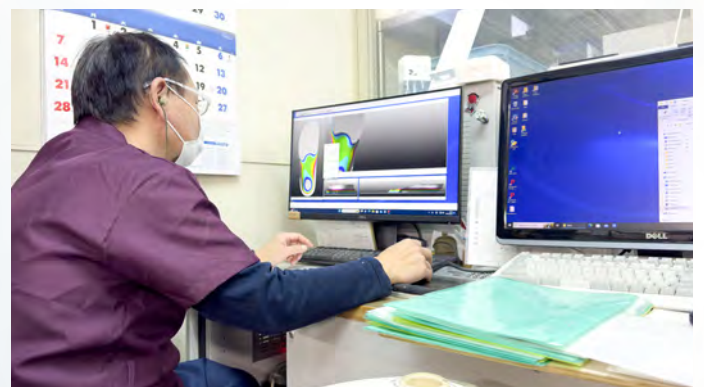
将来への対応を見据える中で外せない DX化の推進と社会や医療制度改革への備え

当社では、約7割がオーダーメイド制作で、ワークフローとしては医師が診察に基づいて処方、それを受けて義肢装具士が採型します。出来上がった製品を医師、患者様、義肢装具士が揃って適合確認し、医師の承認を得てから患者様への納品となります。お支払いは納品時に患者様から当社へ行って頂きます。その後、患者様から健保に療養費支給申請をして頂き、

保険者が認めれば、保険の負担割合に応じて支給が受けられます(3割負担の方であれば7割支給)。コロナ禍によって、診察の一部や、会議などが部分的にリモート化され、効率化が少しずつ進んでおりますが、山間部や遠方の病院への義肢装具士の派遣は現在もございませす。移動時間などコスト負担が大きく、そのほかにも医療機関と当社、患者様や、健康保険を取り扱う機関との間で行われるデータのやり取りに関しても業務効率化しないといけない課題があり、本講座を受講をしました。DXプランの策定では、患者様に寄り添ったサービス提供をビジョンに掲げ、病院参院型の現行モデルから関係者全員がベネフィットを感じられる、オンラインを活用した患者様来所型の新たなワンストップサービスの創出を目指しました。現状では医師、患者、義肢装具士が集合して適合確認をする制度や、様々な健康保険の経理データの流れがあり、当社だけで変革することは困難ですが、各管轄省庁などに働きかけDX化が進められないか検討しています。当社は若い社員も多いため、デジタルツールに関しては抵抗感もなく、スムーズに受け入れて貰いやすいのですが、今回講座を受けてDX化の概念や手法を知ること、変革に対する取り組み方や対応方法、また社内への浸透方法を知ることができ、様々な業種の企業様とのディスカッションを経て、視野が拡大したことは大きな学びであり、貴重な経験となりました。

現時点での取り組み状況と課題

現状で、患者様が当社拠点へ来所いただくサービスの実現は、様々な制度上での問題で難しいですが、制度変更がされ実現可能になった場合に備えることが現時点での課題です。必ずしも対面を必要としない場合はオンライン対応へ、製造のワークフローでは、採寸から型紙作成後にデータ化してCADで設計したり、スキャナで読み込んだデータをCAD/CAMを利用し一部を自動化することや、デジタルの利用で製造補助を行うなど業務効率化に取り組んでいます。製造工程の全てを自動化することは困難ですが、できることから少しずつデジタルツールを検討し、取り入れながらDX化を進めています。新人教育では製造プロセスを動画で活用、技術やノウハウを承継しています。



常に迅速に!必要なタイミングでサービスを提供

DX化の概念を社内全体へと浸透させ、今後医療DXが急速に進展していった場合に、患者様や医療機関などステークホルダーの皆様にも混乱を与えず、変化に即応し、安心・安全、さらに便利で、高品質のサービスを提供していきたく準備を進めています。また、義肢装具士をはじめとする社員全体に負担がない働き方を実現し、より良い職場環境を築いていくためにもDX化を推進していきます。そして、常に情報を収集してエビデンスを蓄積し様々な制度変更にも備え、今後も継続して当社の製品・サービスを迅速に提供できる体制を整え、研究・技術・開発力を強化し、様々な分野で必要とされ、社会に貢献する企業へと成長して参ります。